

# EEM スクリプトと Nexus 5500 スケジューラ機能

## 内容

[概要](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[問題](#)

[解決方法](#)

[関連情報](#)

## 概要

このドキュメントでは、Embedded Event Manager(EEM)スクリプトを使用するCisco Nexus 5500シリーズスイッチのスケジューラ機能に似た機能を提供する簡単な回避策について説明します。

## 前提条件

### 要件

次の項目に関する基本的な知識が推奨されます。

- Cisco Nexus 5500 シリーズ スイッチ
- EEMスクリプト

### 使用するコンポーネント

このドキュメントの情報は、次のソフトウェアとハードウェアのバージョンに基づいています。

- Cisco Nexus 5500 シリーズ スイッチ
- Cisco Nexusオペレーティングシステム(NXOS)バージョン6.0(2)N2(1)以降

このドキュメントの情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されました。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、初期（デフォルト）設定の状態から起動しています。対象のネットワークが稼働中である場合には、どのようなコマンドについても、その潜在的な影響について確実に理解しておく必要があります。

## 問題

Cisco Nexus 5500シリーズスイッチは、5.x、6.x、または7.xトレインのスケジューラ機能をまだサポートしていません。スケジューラ機能がなければ、特定のタスクを毎時または毎日実行できません。

## 解決方法

EEMスクリプト(最初にNXOSバージョン6.0(2)N2(1)でサポート)のパラメータを変更すると、常にトリガーされる値をチェックするために、スケジューラ機能の機能がイベントのポーリング間隔を変更するようにシミュレートされます。

次の例では、Nexus(1.3.6...)のCPUにオブジェクト識別子(OID)が使用されています。  
.1.1.1.6.1)スイッチ。このOIDは常に0~100の値を返します。そのため、OIDが常にトリガーされる値が12345より小さい値に一致する場合は、必ずトリガートリガーされます。次に、目的のアクションが実行されるように、目的の間隔(この例では86,400秒)でイベントをトリガーするようにpoll-intervalを変更する必要があります。

```
cli alias name backupconfig copy running-configuration tftp://[server_IP]/$(SWITCHNAME)_Running-Config_$(TIMESTAMP) vrf management vdc-all
```

```
event manager applet Schedule_Backup
event snmp oid 1.3.6.1.4.1.9.9.109.1.1.1.1.6.1 get-type exact entry-op le entry-val
12345 poll-interval 86400
```

```
action 1.0 cli command backupconfig
```

```
action 2.0 syslog priority notifications msg Running_Config_Backup_Complete
```

この例では、実行コンフィギュレーションを86,400秒(24時間ごと)ごとにTFTPサーバにコピーします。\$(SWITCHNAME)変数と\$(TIMESTAMP)変数が使用され、ファイルが別の名前で保存されます。これにより、サーバは複数のバックアップ構成を保持できます。コマンドを実行するたびにTIMESTAMPを再計算するには、CLIEイリアスを使用します。また、Running\_Config\_Backup\_Completeメッセージがsyslogに出力されていることに注意してください。

## 関連情報

- [EEMの設定 – Cisco Nexus 5500シリーズNX-OSシステム管理設定ガイド、リリース6.x](#)
- [Cisco Nexus 5500シリーズリリースノート、Cisco NX-OSリリース6.02](#)
- [テクニカルサポートとドキュメント - Cisco Systems](#)